

**答**

浴場の維持管理については、劣化状況に応じて優先順位を付け、適宜、修繕していくとともに、保守点検によって、機器の延命に努めたい。大規模改修の必要性については、耐用年数や利用率などを総合的に考慮し、今後、検討していきたい。

また、浴場施設の在り方を検討するに当たって、アンケート調査を実施する予定はないが、利用者の意見を聞きながら、運営に反映していきたいと考えており、健康器具の設置や市内浴場の利用券の発行など健康寿命の延伸につながる施策を検討していきたい。



公衆浴場がある西条東部地域交流センター

黒川 理恵子 議員



1 (一般質問)  
地域人材育成の取組について

**教育現場と連携した郷土愛の醸成を！**

地域を愛する若い世代の人材育成を目指し、教育現場との連携による一貫した取組を行うべきではないか。

**問**

人口減少が急速に進む中、学校と自治体が連携した地域人材の育成は重要であると認識している。本市では、郷土愛にあふれ、地域の未来と自身の生き方を合わせて考えることができる若手人材を育成することを目的に、平成15年から「うちぬき未来カレッジ」など、さまざまな事業を市内高等学校と展開し

**答**

ており、高い評価を得ている。また、市教育委員会では、若い世代の定住・回帰意欲を高めることを課題と捉え、まちへの愛着や誇りであるシビックプライドの醸成を図ることが重要と考えており、各小・中学校において、地域の歴史を探究する史跡巡りなど、児童・生徒の発達段階に応じた学習や体験活動を通じて、地域を愛する人材の育成を推進している。



「うちぬき未来カレッジ」でのグループワーク

西条直民 クラバ

川 又 由美恵 議員



(一般質問)

1 女性管理職について  
2 事業系紙おむつの処理について

3 東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」について

**増える大人用紙おむつごみ削減の対策は？**

**問** 平成29年における全国産枚数は80億枚近くになり、そのごみの量は14万7千600トン、45リットルのごみ袋に換算すると約9千65万袋と推計される。介護施設などの事業所から排出される紙おむつのごみの現状と課題について、

どのよう認識しているのか。環境省は、2019年度に自治体に対して使用済み紙おむつのリサイクルを促すガイドラインを策定予定である。鳥取県伯耆町では、リサイクル企業が開発した装置を活用し、使用済み紙おむつを2センチメートルほどの固形燃料にすることで、ごみの減量化に成功している。また、福岡県の一部自治体では、企業が持つリサイクル技術を活用して、使用済み紙おむつをリサイクル建築資材などに再生している。更に、国土交通省でも使用済み紙おむつの新たな処理方法を2019年度にも実用化する方針であるが、まずは、薬品などで紙おむつと分離させたし尿を下水道に流せるようにし、将来的には、紙おむつを機械で細かく破碎し下水道に流す方式の実現を目指すようである。

高齢化に伴い大人用紙おむつの排出量は今後ますます増加し、新たなごみ問題に発展していくと思われるが、本市では資源化・リサイクルに向けた取組について、どのように考えているのか。